認定農業者、認定新規就農者向け
アンケート調査結果

令和８年７月

前橋市　農政課

1　アンケート調査概要

【目的】
農業を取り巻く現状や、農業者が日頃感じている課題、今後行政に期待する支援内容などを把握し、今後の農業振興を図るうえでの基礎資料とするため。

【対象者】

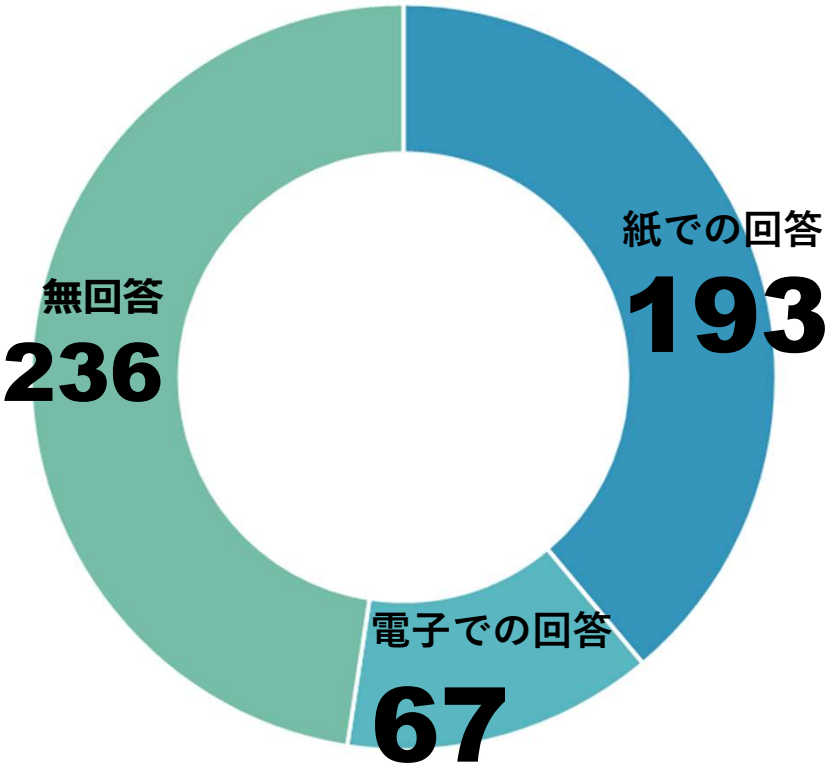
令和8年1月1日時点で、市内に住所または主たる拠点があり、台帳に記載されている認定農業者（482経営体）及び認定新規就農者（14経営体）　　計496経営体

【実施方法】

令和８年度前橋市農業者向け物価高騰対策支援金の案内と併せて郵送で依頼し、
同封のアンケート用紙または電子申請にて回答を得た。

【実施期間】

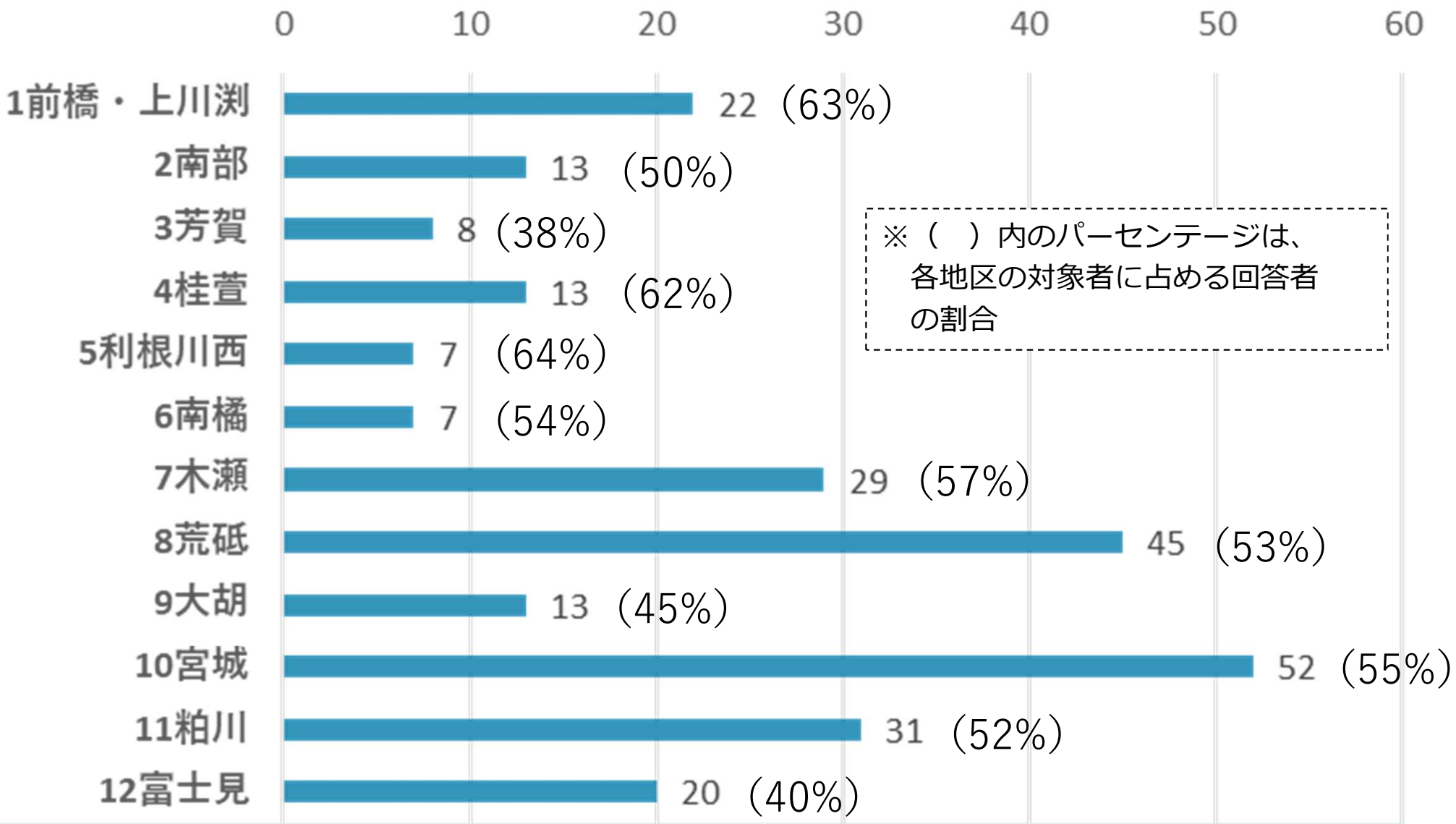
令和8年4月20日～令和8年6月30日



回答率：52.4%
(260経営体／**496**経営体)

2　回答者属性①（主な営農地区）

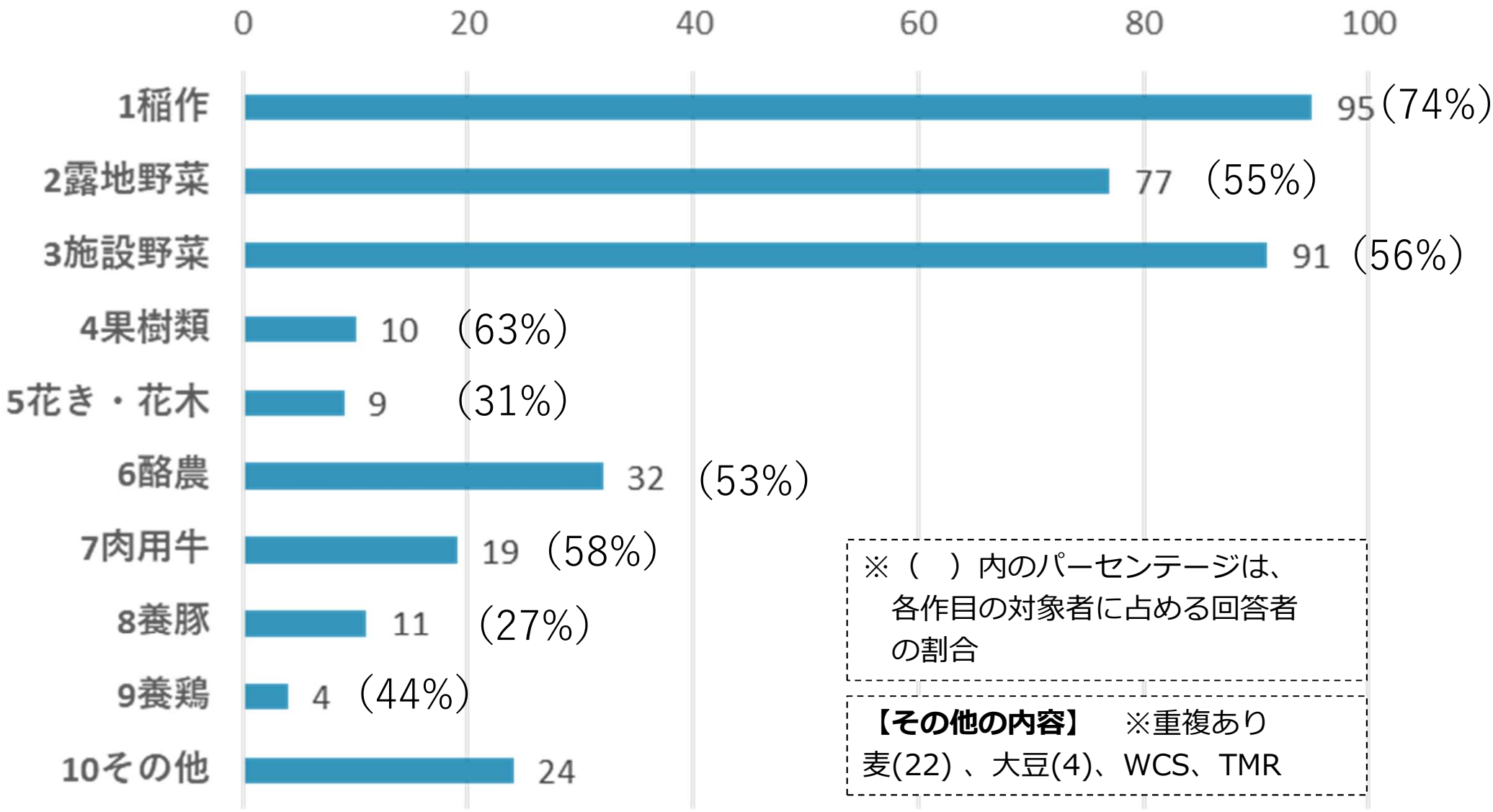
n=260（単一回答）



■「芳賀」「大胡」「富士見」で回答率がやや低めであるが、
その他の地区では対象者の50%～64%の回答を得られた。

3　回答者属性②（主な作目）

n=260（複数回答）



※（　）内のパーセンテージは、各作目の対象者に占める回答者の割合

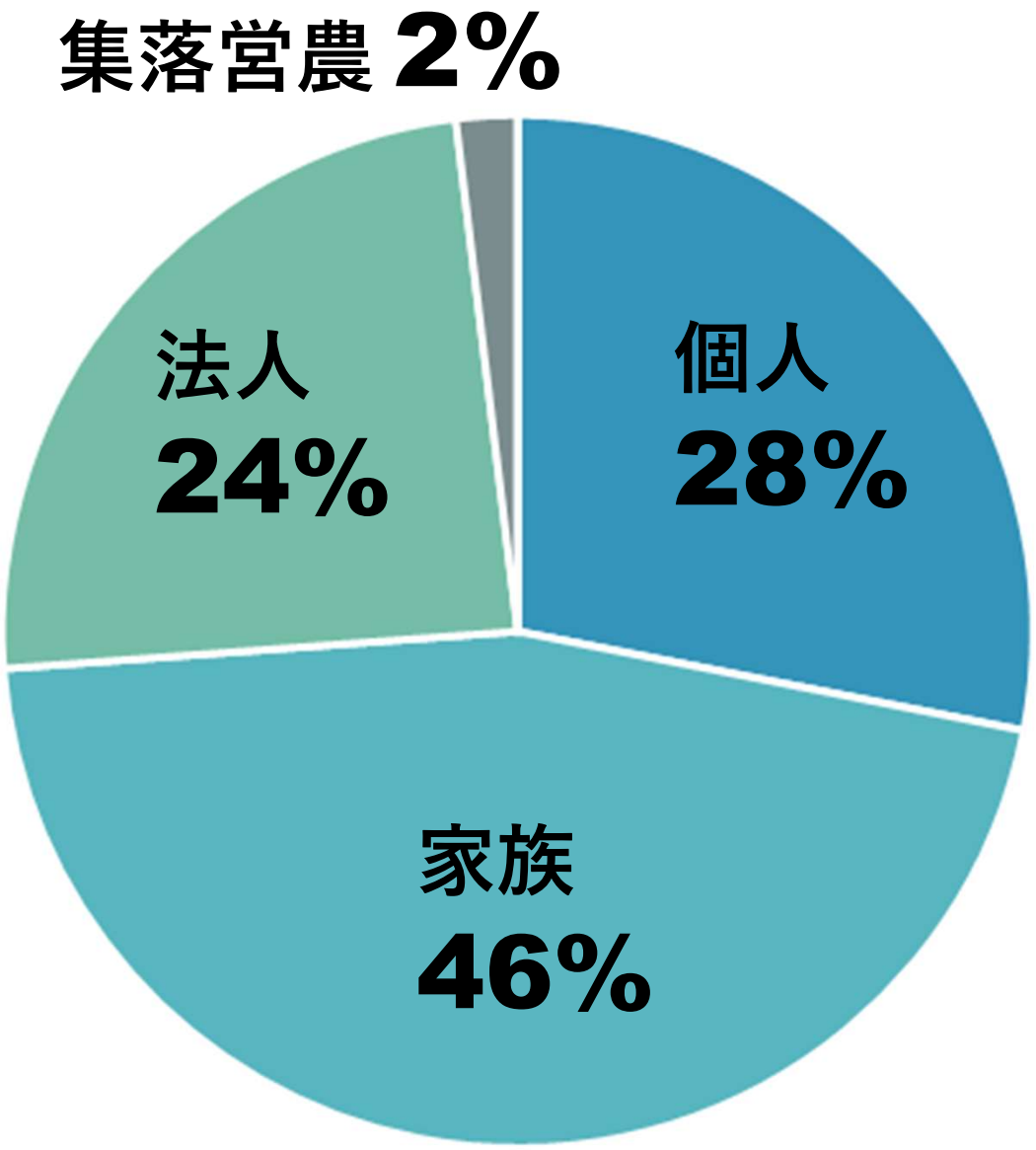
【その他の内容】　※重複あり

麦(22)、大豆(4)、WCS、TMR

- 「花き・花木」「養豚」「養鶏」で回答率が低めであるが、その他の作目では対象者の過半数（53%～74%）の回答を得られた。

4　回答者属性③（経営形態）

n=260（単一回答）

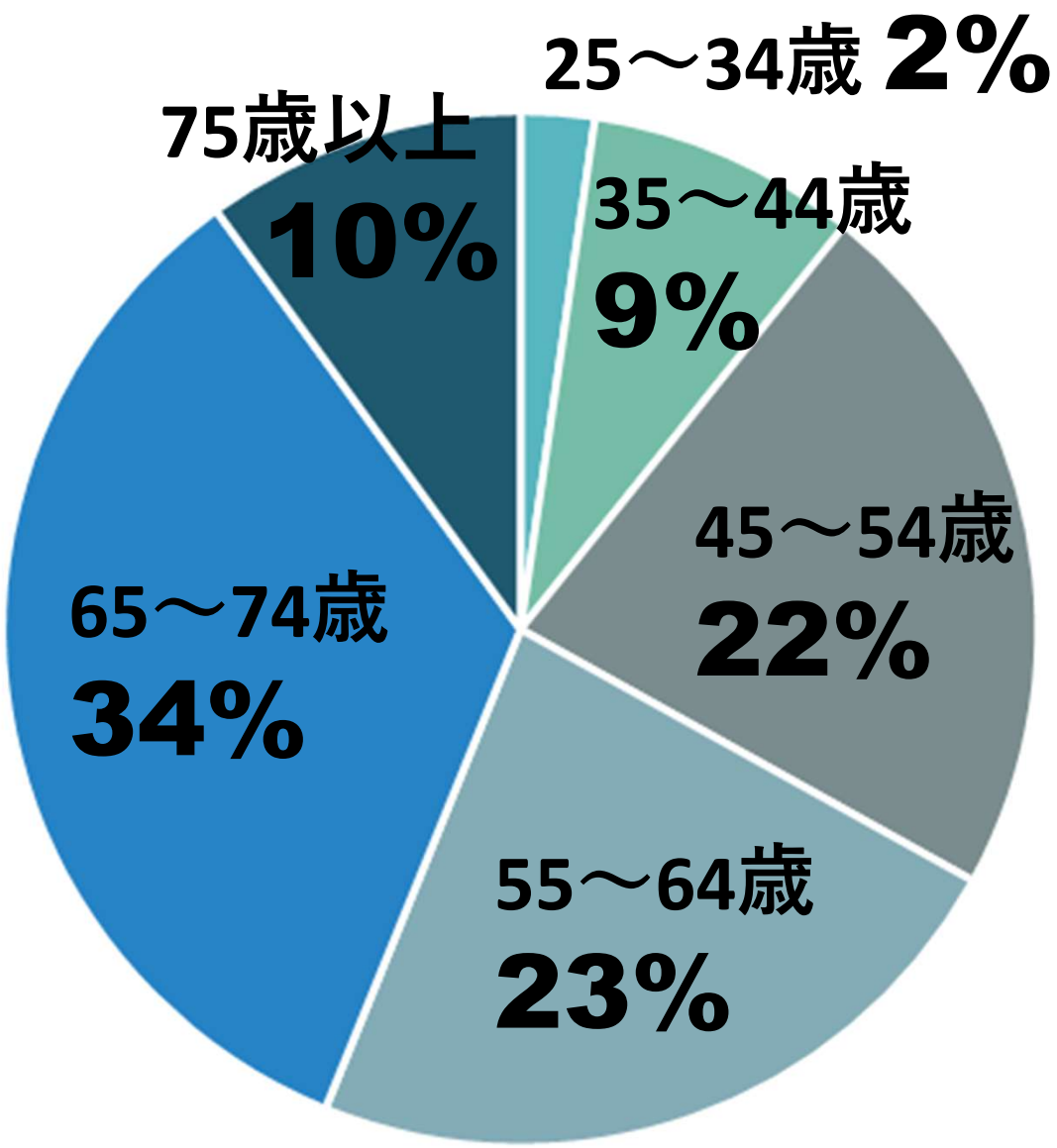


- 回答者のうち、家族経営が46%を占める。
- 回答者のうち、集落営農を含めた法人が26%を占める。

【参考：農林業センサス2025】
市内農業経営体における
法人化率　7.26%

5　回答者属性④（主たる農業経営者の年齢）

n=260（単一回答）

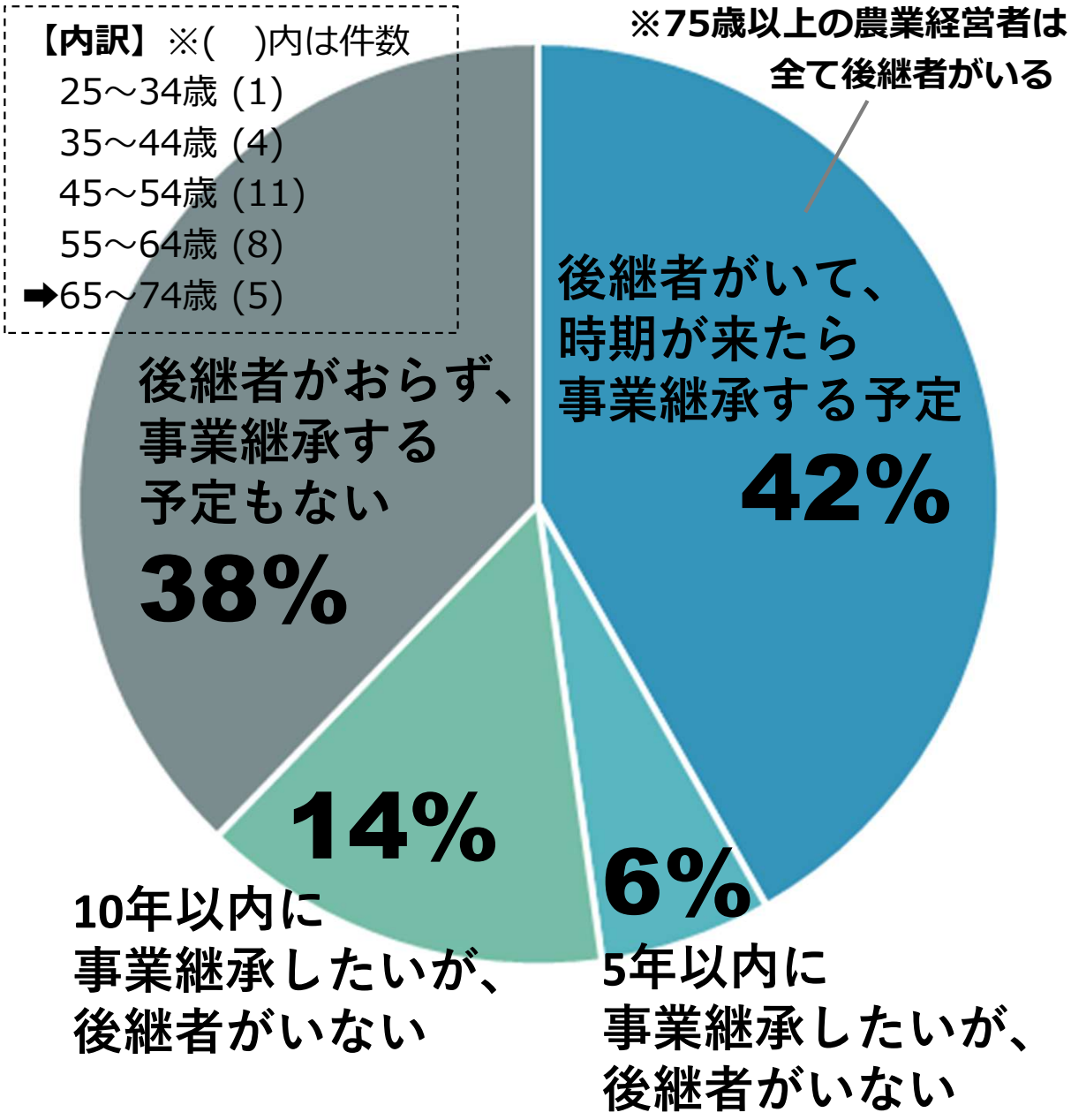


- 回答者のうち、65歳以上の農業経営者が44%を占める。

【参考：農林業センサス2020】
市内農業経営体において、
65歳以上の経営主が占める
割合　67%

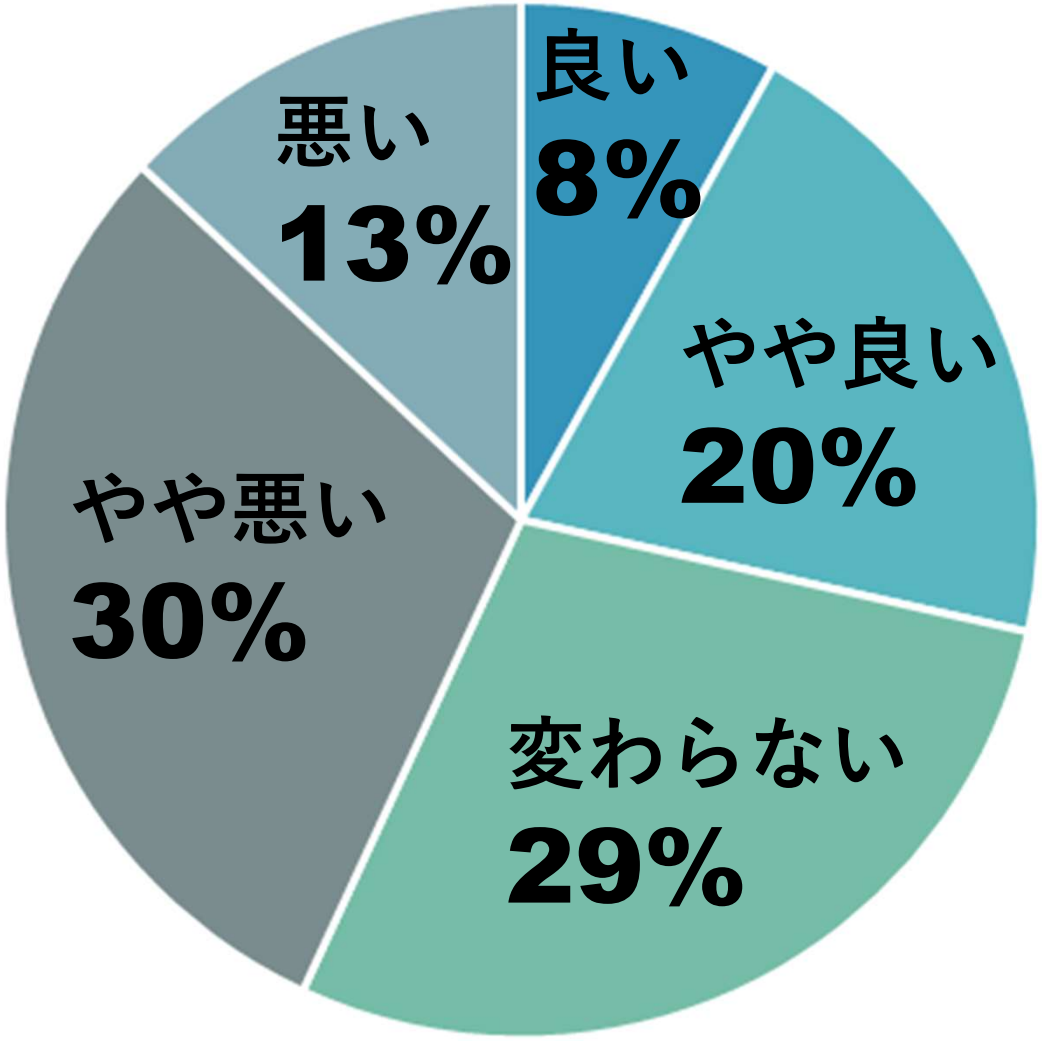
6　後継者の確保状況

n=249（単一回答）



- 42%において後継者がいる。
  【参考：農林業センサス2020】
  市内農業経営体のうち後継者がいる経営体　17.8%
- 20%は、事業継承したくても後継者がいない。
  回答者の20%➡約50経営体
  対象者の20%➡約100経営体は10年後の存続を危惧。
- 「後継者がおらず、事業継承する予定もない」のうち、経営主が65～74歳(回答者の2%)も10年後の存続を危惧。

7　1年前と比較した現在の経営状況　n=260（単一回答）



【良い・やや良い理由】

米価上昇(稲24)、子牛価格の上昇(牛1、酪2)、単価上昇(露2)、価格安定(施)、豊作(果)、乳量が良い(酪)、規模拡大(露、酪)、販路拡大(施)、施設導入(施)、生産と販売に注力(豚)、売上増(露、施)、価格転嫁と太陽光発電によるコストダウン(施)

【変わらない理由】

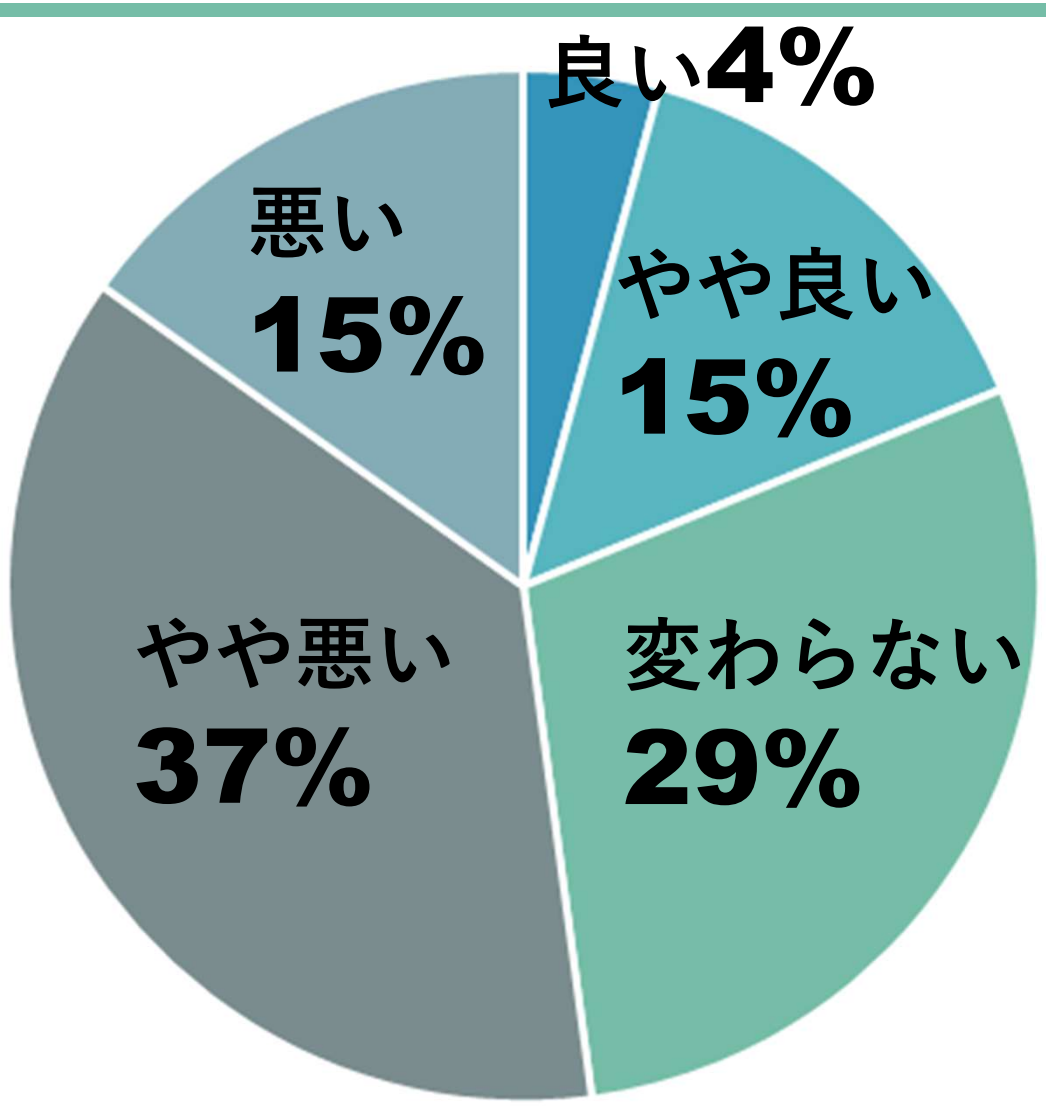
売上増でもコスト増(稲、露、花、酪、牛)、変わらず良くない(豚)

【悪い・やや悪い理由】

資材高騰(稲7、露6、施9、果、酪9、牛3、豚2、鶏)、**気候変動による収量減**(稲3、露7、施6、果)、**人件費上昇**(稲2、露3、施2、花、酪)、価格低迷(露5、施3、果)、人手不足(稲3、露2、施、酪)、収量減(露、施5)、猛暑による繁殖不良や生育不良(酪、豚)、機械や施設の高騰(稲、酪2)、家畜の病気(豚2)、自身の病気(稲、施、牛)、生育不良(果2)、外来種被害(果)

- 「良い・やや良い」は28%　⇦米価上昇を背景に稲作が好調
- 「悪い・やや悪い」は43%　⇦資材高騰、気候変動、人件費上昇

8　1年前と比較した現在の経営状況（稲作以外）

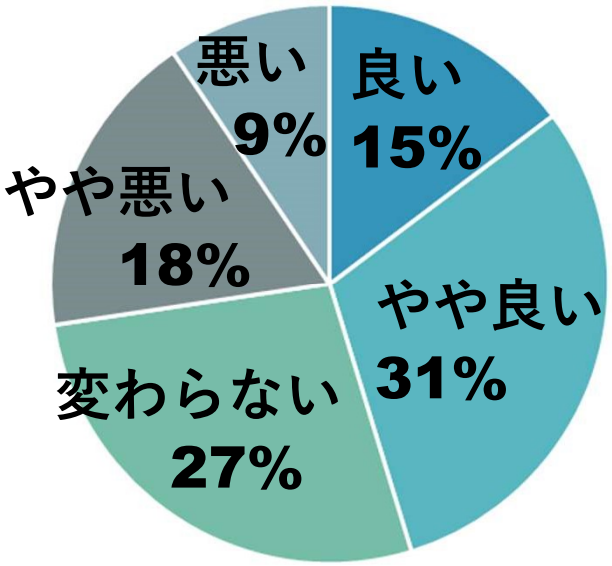


n=165（単一回答）

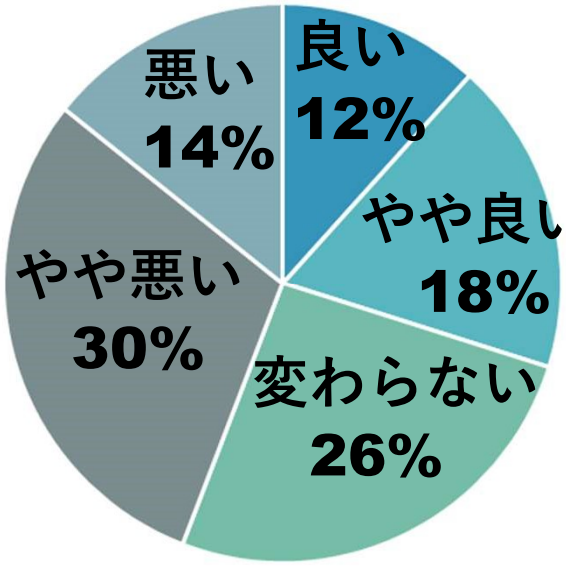
- 「令和の米騒動」における米価の上昇が一時的なものであるとして、稲作以外で経営状況を見てみると、
  「良い・やや良い」は
  19%（-9ポイント）
  「悪い・やや悪い」は
  52%（+9ポイント）
  となり、稲作を含めた場合より経営状況が悪化している傾向にあることがわかる。

９　1年前と比較した現在の経営状況（耕種）

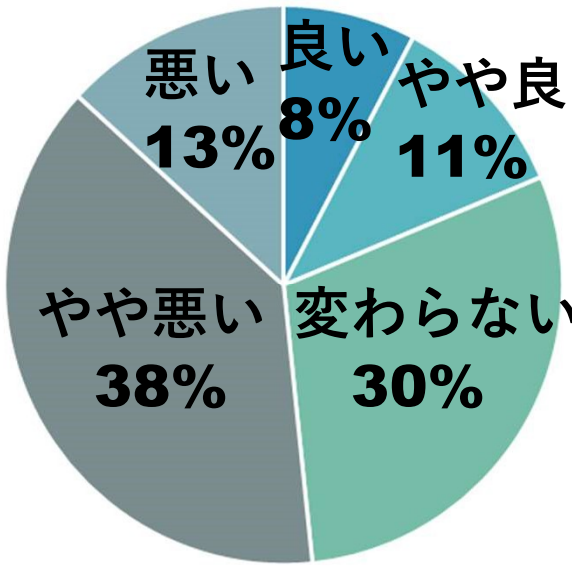
■稲作（n=95）



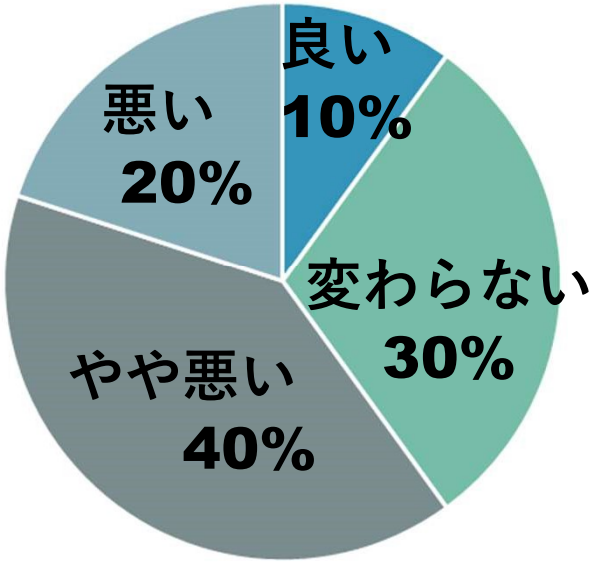
■露地野菜（n=77）



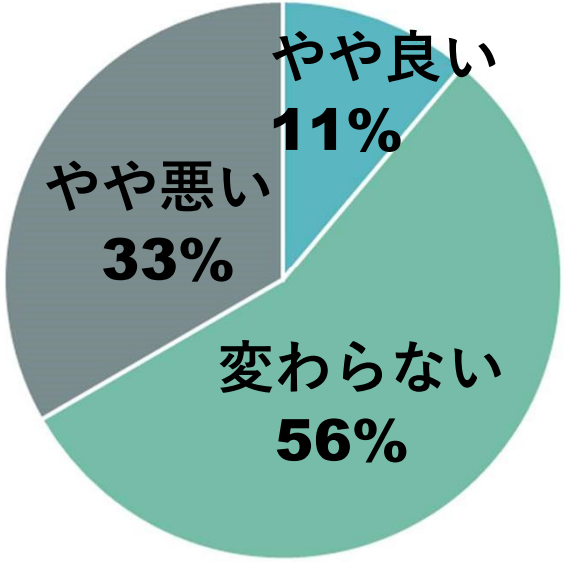
■施設野菜（n=91）



■果樹類（n=10）



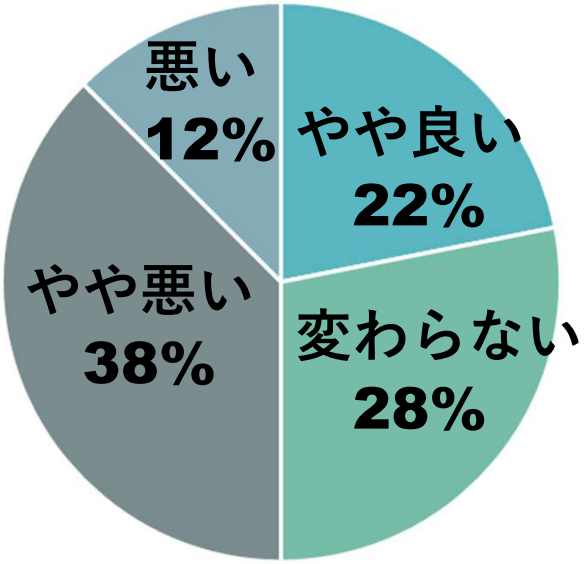
■花き・花木（n=9）



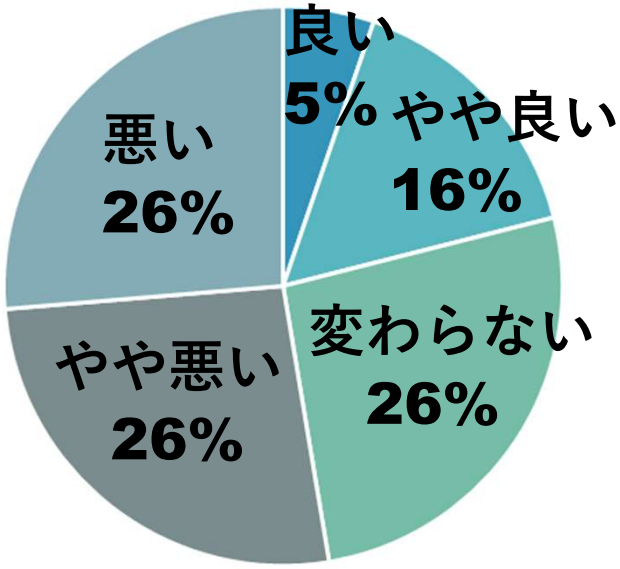
（単一回答）

10　1年前と比較した現在の経営状況（畜産）

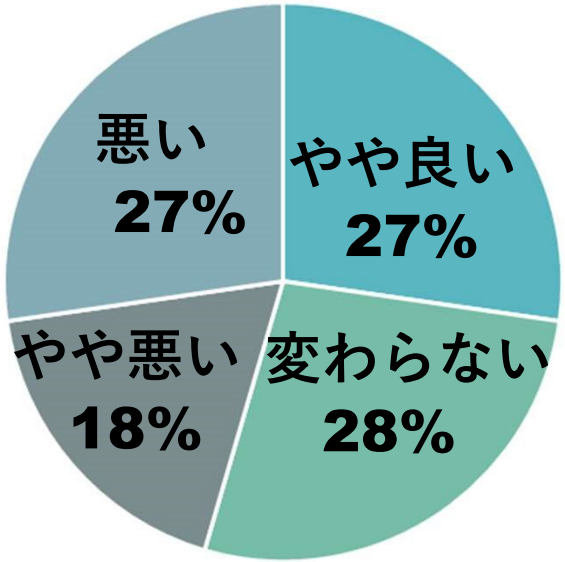
■酪農（n=32）



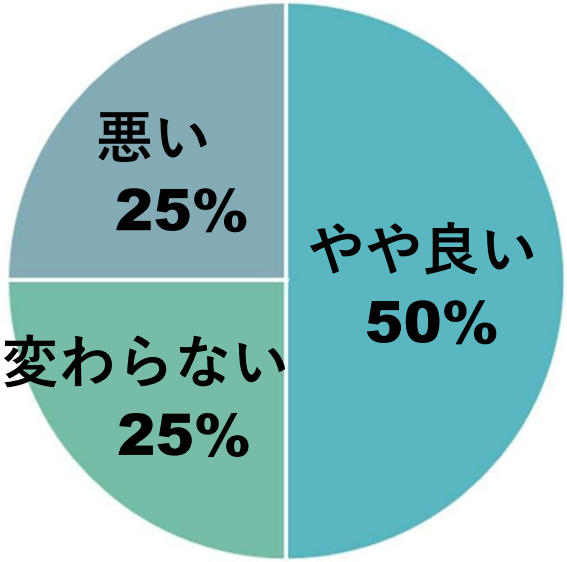
■肉用牛（n=19）



■養豚（n=11）



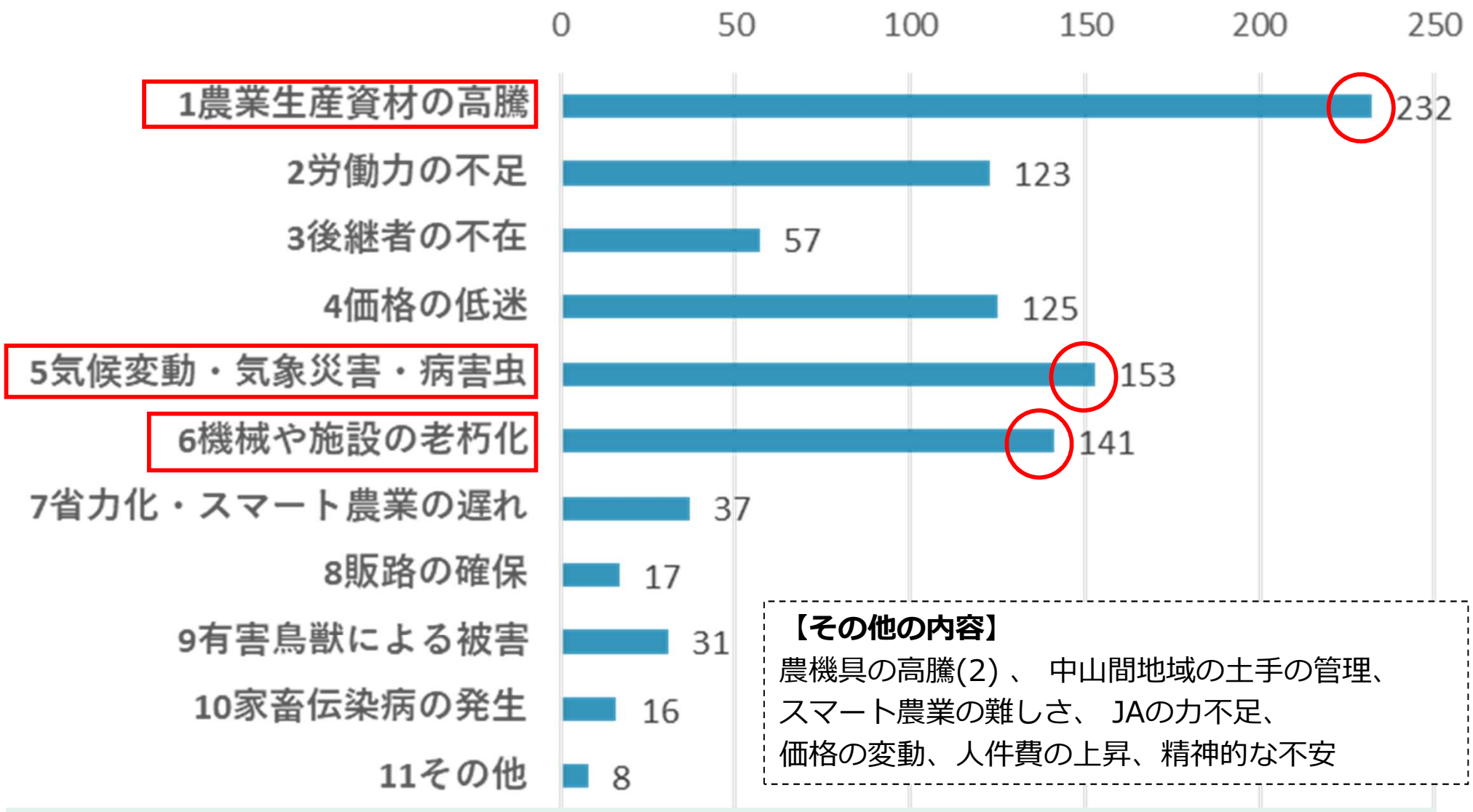
■養鶏（n=4）



（単一回答）

11　営農を継続するうえでの負担や不安

n=259（複数回答）



【その他の内容】
農機具の高騰(2) 、 中山間地域の土手の管理、
スマート農業の難しさ、 JAの力不足、
価格の変動、人件費の上昇、精神的な不安

- 「農業生産資材の高騰」「気候変動・気象災害・病害虫」「機械や施設の老朽化」が大きな負担や不安材料となっている。

12　作目別の負担や不安の上位3位（耕種）

■ **稲作** n=95

➡**①農業生産資材の高騰** (82)

②気候変動・気象災害・病害虫(52)

③労働力の不足 (44)

■ **露地野菜** n=77

➡**①農業生産資材の高騰** (70)

②気候変動・気象災害・病害虫(56)

③価格の低迷 (50)

■ **施設野菜** n=91

➡**①農業生産資材の高騰** (88)

②気候変動・気象災害・病害虫(63)

③価格の低迷 (51)

■ **果樹類** n=10

➡**①気候変動・気象災害・病害虫** (9)

②農業生産資材の高騰 (8)

③後継者の不在 (4)

〃 価格の低迷 (4)

■ **花き・花木** n=9

➡**①農業生産資材の高騰** (8)

〃 気候変動・気象災害・病害虫 (8)

③機械や施設の老朽化 (5)

※（　）内の数字は回答数（複数回答可）

13　作目別の負担や不安の上位3位（畜産）

■ **酪農**　n=31

➡**①農業生産資材の高騰**　(28)

②機械や施設の老朽化　(26)

③労働力の不足　(18)

〃 気候変動・気象災害・病害虫(18)

■ **肉用牛**　n=19

➡**①農業生産資材の高騰**　(18)

②機械や施設の老朽化　(12)

③労働力の不足　(7)

〃 価格の低迷　(7)

※（　）内の数字は回答数（複数回答可）

■ **養豚**　n=11

➡**①農業生産資材の高騰**　(10)

②家畜伝染病の発生　(8)

③機械や施設の老朽化　(7)

■ **養鶏**　n=4

➡**①農業生産資材の高騰**　(3)

〃 家畜伝染病の発生　(3)

③労働力の不足　(1)

〃 後継者の不在　(1)

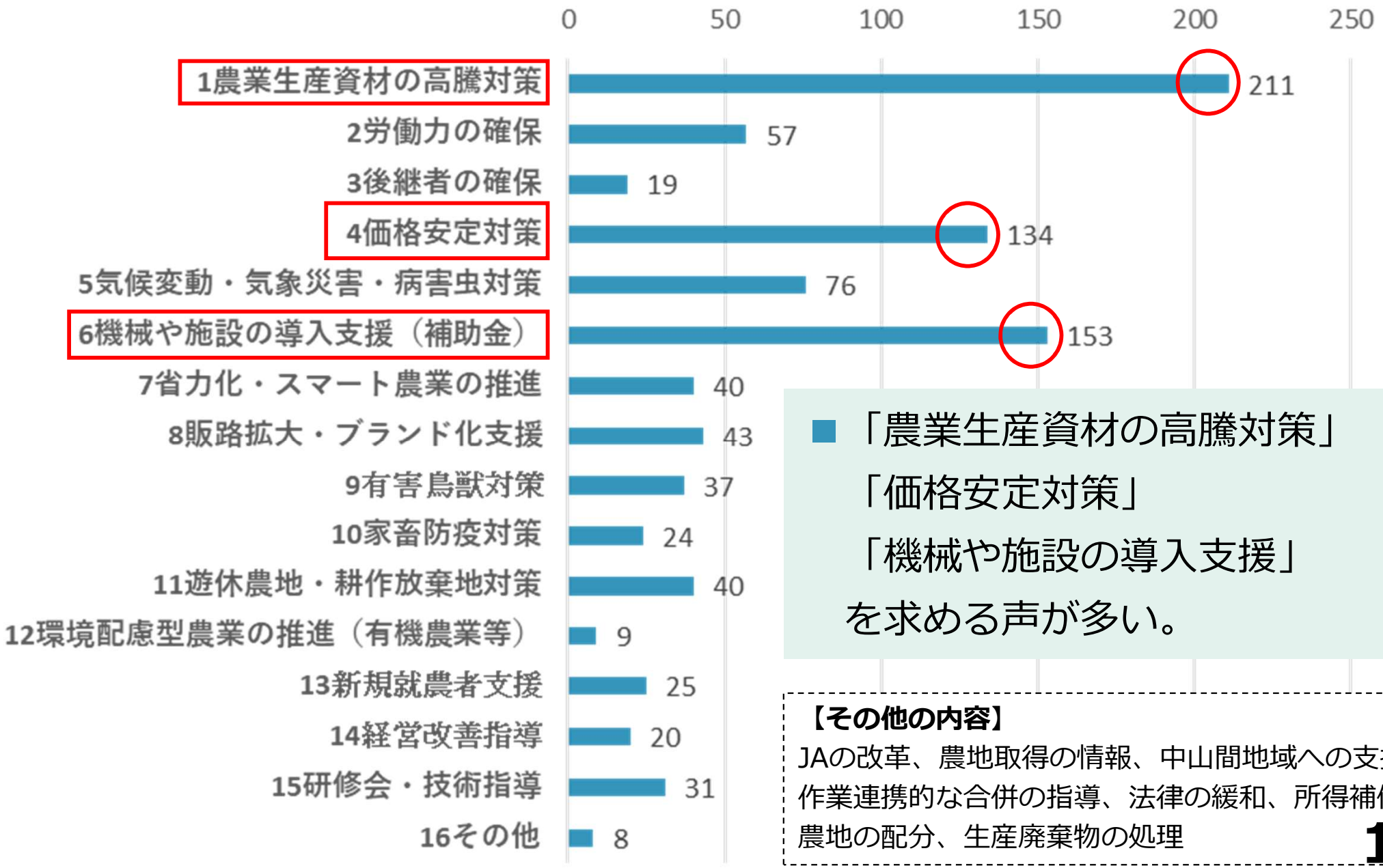
〃 機械や施設の老朽化　(1)

〃 有害鳥獣による被害　(1)

■ 養豚では豚熱、養鶏農家では鳥インフルエンザの発生も大きな負担や不安である。

14　行政に求める支援

n=251（複数回答）



- 「農業生産資材の高騰対策」
  「価格安定対策」
  「機械や施設の導入支援」
  を求める声が多い。

【その他の内容】
JAの改革、農地取得の情報、中山間地域への支援、作業連携的な合併の指導、法律の緩和、所得補償、農地の配分、生産廃棄物の処理

15　作目別の求める支援の上位3位（耕種）

■**稲作**　n=91

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(74)

②機械や施設の導入支援　(53)

③価格安定対策　(52)

■**露地野菜**　n=75

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(65)

②価格安定対策　(51)

③機械や施設の導入支援　(44)

■**施設野菜**　n=87

➡**①農業生産資材の高騰**　(76)

②機械や施設の導入支援　(59)

③価格安定対策　(54)

■**果樹類**　n=10

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(8)

②気候変動・気象災害・病害虫対策(4)

〃機械や施設の導入支援　(4)

〃販路拡大・ブランド化支援　(4)

■**花き・花木**　n=9

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(8)

②気候変動・気象災害・病害虫対策(5)

〃機械や施設の導入支援　(5)

※（　）内の数字は回答数（複数回答可）

16　作目別の求める支援の上位3位（畜産）

■ **酪農**　n=31

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(24)

②機械や施設の導入支援　(21)

③価格安定対策　(11)

〃 有害鳥獣対策　(11)

■ **肉用牛**　n=19

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(19)

②機械や施設の導入支援　(11)

③有害鳥獣対策　(8)

■ **養豚**　n=9

➡**①農業生産資材の高騰対策**　(8)

〃 家畜防疫対策　(8)

③機械や施設の導入支援　(7)

■ **養鶏**　n=4

➡**①家畜防疫対策**　(4)

②農業生産資材の高騰対策　(3)

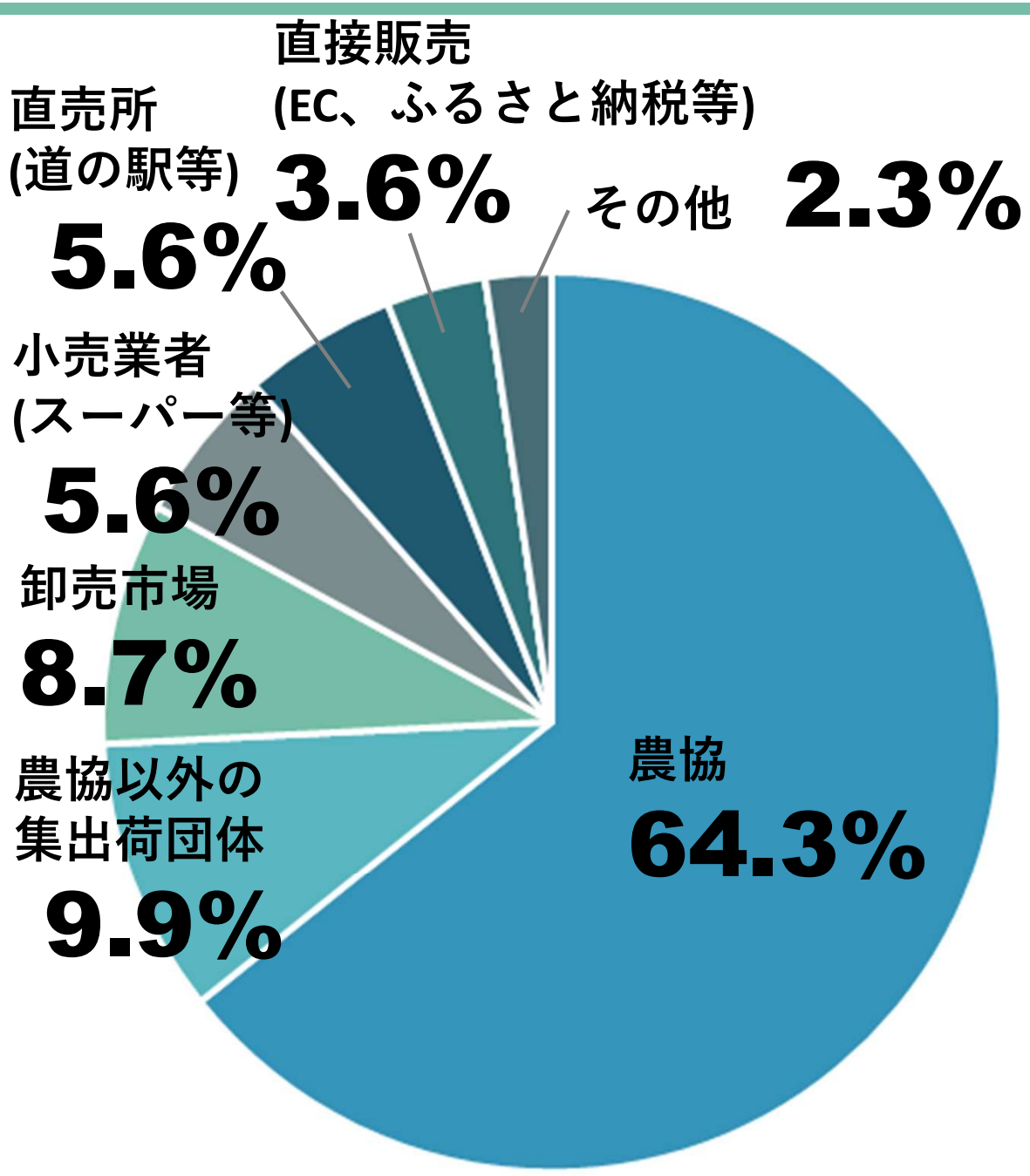
③機械や施設の導入支援　(2)

※（　）内の数字は回答数（複数回答可）

■畜産では「農業生産資材の高騰対策」「機械や施設の導入支援」のほかに、「家畜防疫対策」や「有害鳥獣対策」を求める声が目立つ。

17　主な販路（出荷割合が最大の販路）

n=252（複数回答）



- 【参考】農林業センサス2020における市内農業経営体の場合

「農協」57.0%

「農協以外の集出荷団体」4.7%

「卸売市場」11.6%

「小売業者」5.1%

「食品製造業・外食産業」0.5%

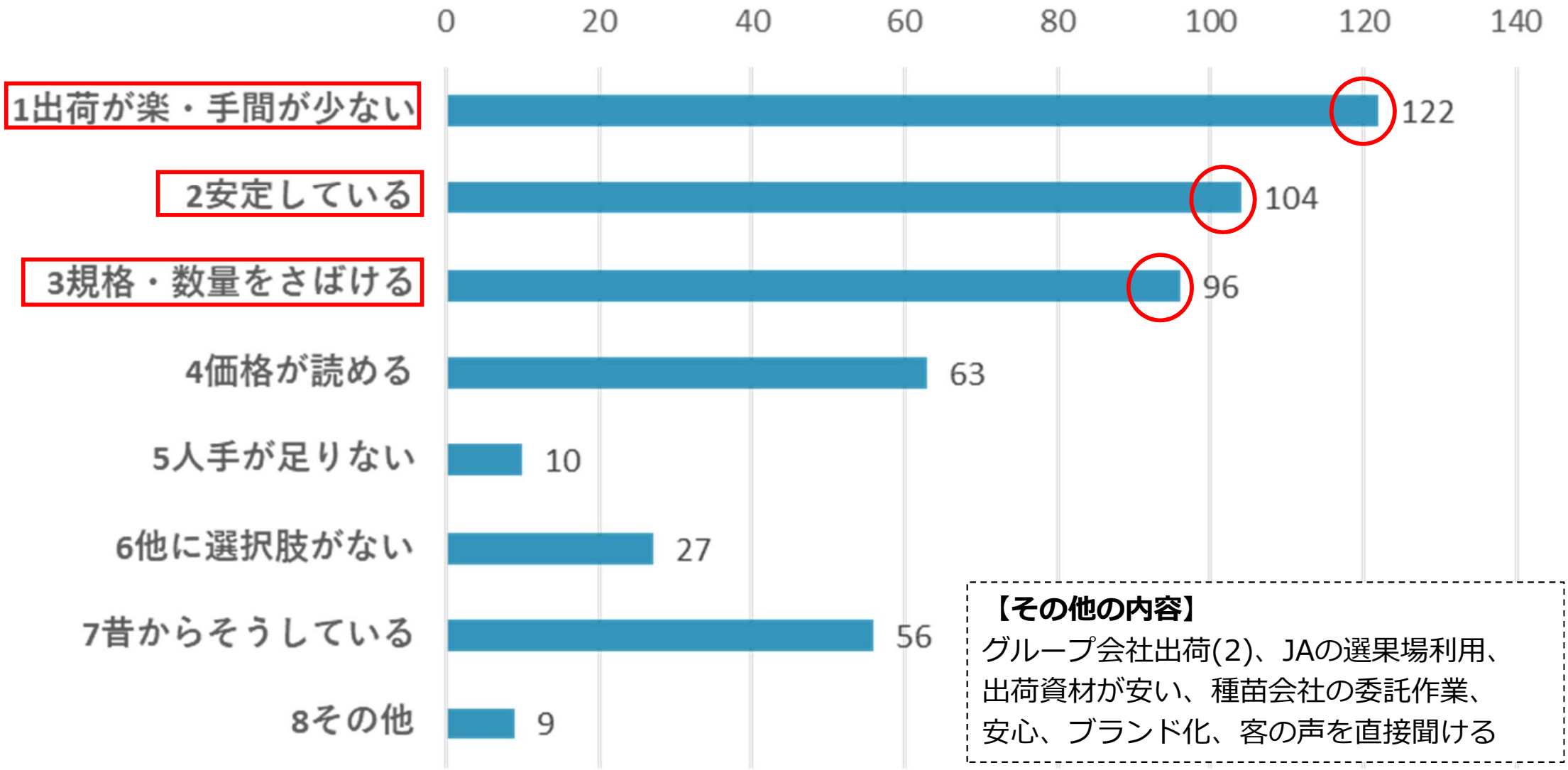
「直接販売」15.4%

「その他」5.7%

- 認定農業者及び認定新規就農者の方が、「農協」や「農協以外の集出荷団体」の割合が高い一方で「卸売市場」や「直接販売」の割合が低い。

18　主な販路を選んでいる理由（全体）

n=251（複数回答）



【その他の内容】
グループ会社出荷(2)、JAの選果場利用、出荷資材が安い、種苗会社の委託作業、安心、ブランド化、客の声を直接聞ける

- 「出荷が楽・手間が少ない」「安定している」「規格・数量をさばける」が現在の販路を選んでいる理由の上位。

19　販路別の選択理由の上位3位

※（　）内の数字は回答数
（複数回答可）

■ **農協**　n=162

➡**①出荷が楽・手間が少ない**　(92)

②規格・数量をさばける　(69)

③安定している　(65)

■ **小売業者(スーパー等)**　n=14

➡**①価格が読める**　(9)

②出荷が楽・手間が少ない　(6)

〃安定している　(6)

■ **農協以外の集出荷団体**　n=25

➡**①安定している**　(12)

②出荷が楽・手間が少ない　(10)

③価格が読める　(9)

■ **直売所(道の駅等)**　n=14

➡**①価格が読める**　(8)

②規格・数量をさばける　(7)

③安定している　(6)

■ **卸売市場**　n=22

➡**①安定している**　(9)

②出荷が楽・手間が少ない　(8)

③規格・数量をさばける　(7)

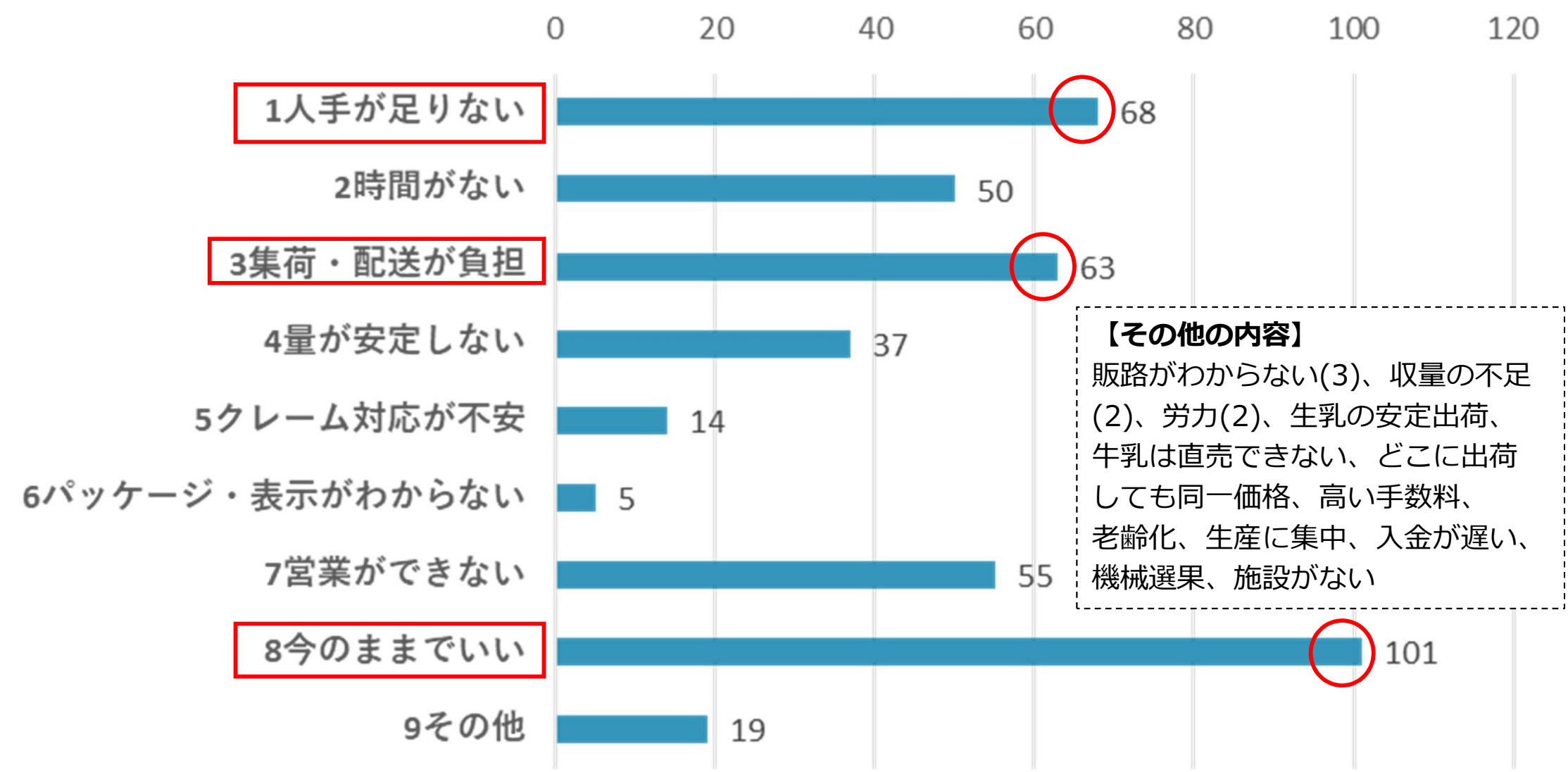
■ **直接販売(EC、ふるさと納税等)**　n=9

➡**①価格が読める**　(6)

②出荷が楽・手間が少ない　(3)

〃安定している　(3)

20　新しい販路に取り組めない理由 n=237（複数回答）

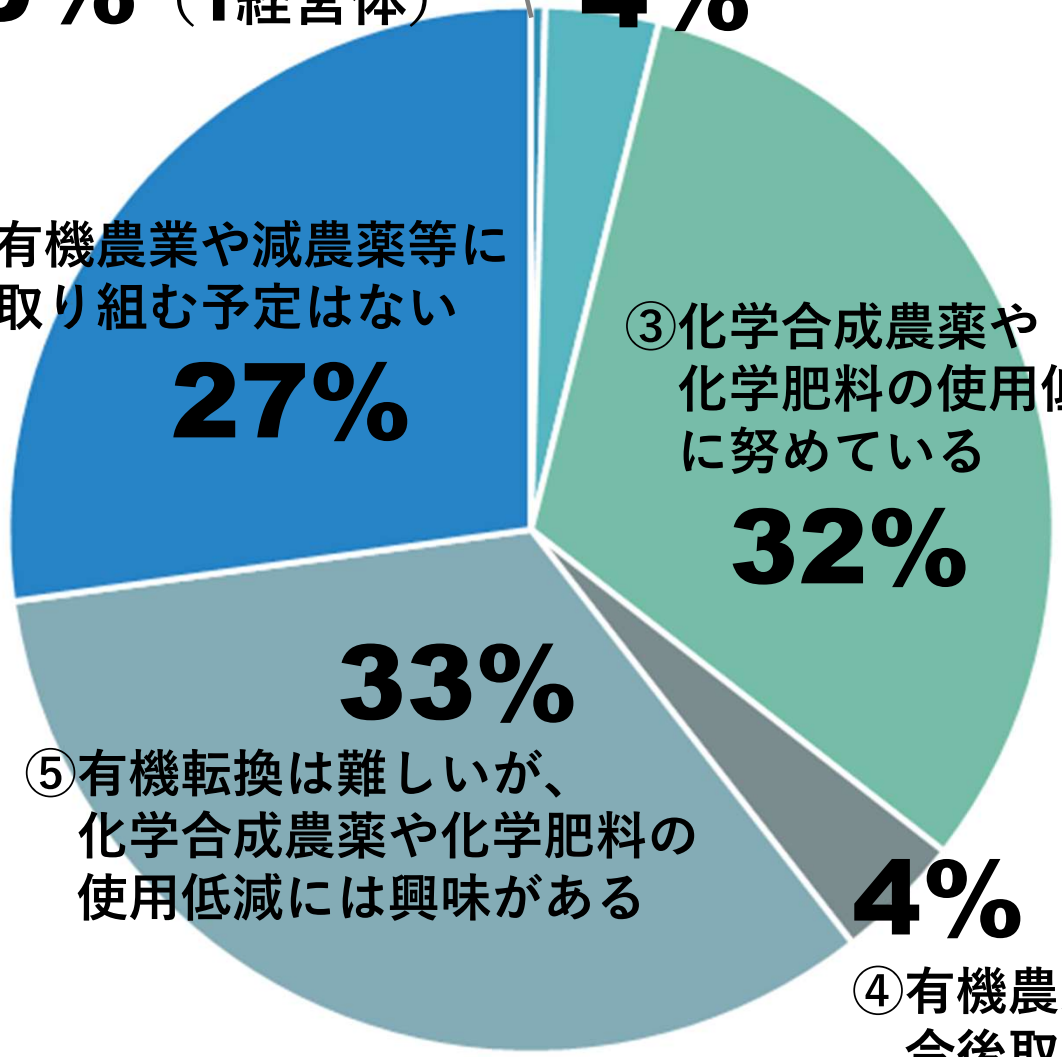


【その他の内容】
販路がわからない(3)、収量の不足(2)、労力(2)、生乳の安定出荷、牛乳は直売できない、どこに出荷しても同一価格、高い手数料、老齢化、生産に集中、入金が遅い、機械選果、施設がない

- 「今のままでいい」が一番多く、「人手が足りない」「集荷・配送が負担」が次いで多い。➡販路開拓には人手不足の解消が必要。

21　有機農業への関心度

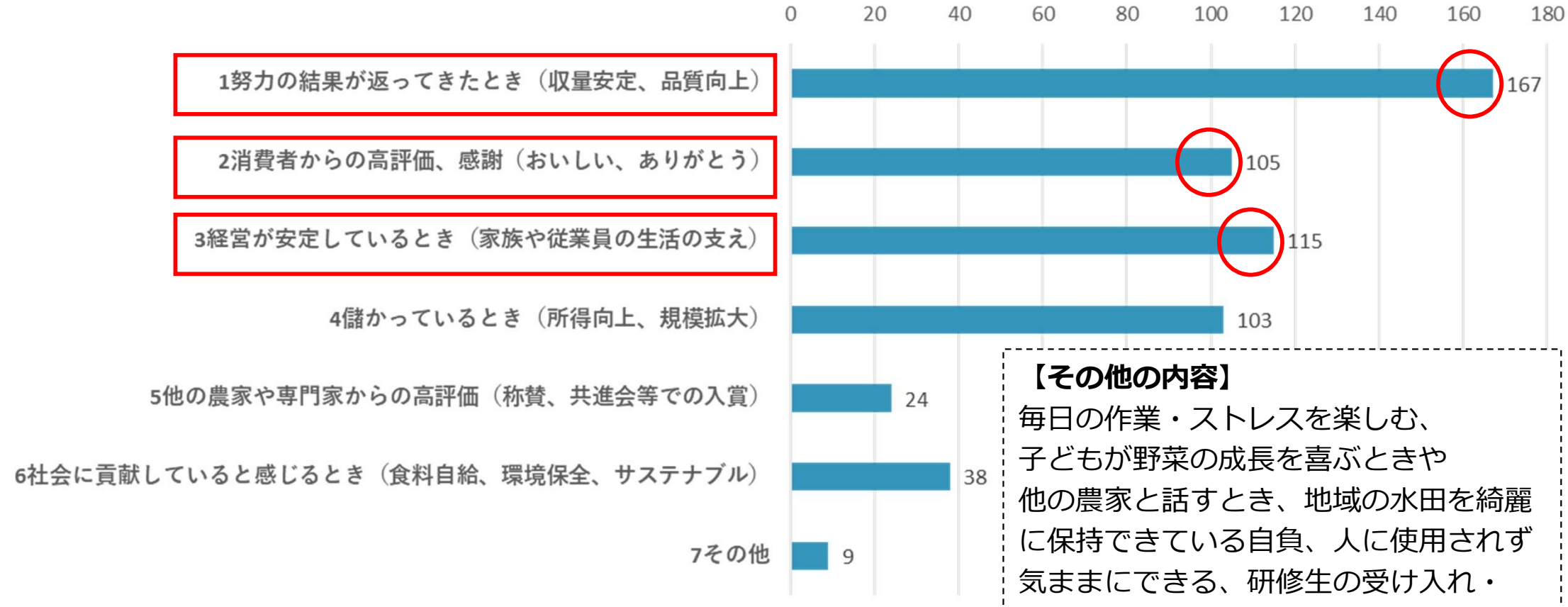
n=230（単一回答）



- 有機JAS認証取得済の経営体(①)は1%未満(1経営体)
- 認証は未取得だが、有機農業に近い栽培を行う経営体(②)は4%
- 既に有機農業や減農薬等に取り組んでいる、または興味があるとする経営体(①～⑤)は73%
- 「有機転換は難しい」または「取り組む予定はない」とする経営体(⑤+⑥)は60%。

22　農業のやりがいを感じるとき

n=246（複数回答）



【その他の内容】

毎日の作業・ストレスを楽しむ、
子どもが野菜の成長を喜ぶときや
他の農家と話すとき、地域の水田を綺麗に保持できている自負、人に使用されず気ままにできる、研修生の受け入れ・導入支援、耕作放棄地にならないように農地を預かるとき、近所の手助けをして喜ばれるとき、緑に囲まれて自給自足、やりがいを感じない

- 「努力の結果が返ってきたとき」が一番多く、次いで「経営が安定しているとき」、「消費者からの高評価、感謝」が多い。

23　前橋市の農業について感じていること

■市の対応への満足

- **各種補助事業に感謝。**(8)
- **丁寧な対応に感謝。**(2)
- 農業支援が手厚く安心。
- トップセールスに感謝。

■現状への不満

- **田の持ち主が農事組合法人へ耕作依頼せず、企業へ売却を検討している。**
- **開発によって機械が通りづらくなり、農業がやりづらい。**
- **野菜の単価が上がらない。**
- **高齢化で田の維持管理が難しい。**
- コロナで情報交換の場が減った。

■将来への不安

- **前橋の農業の将来が見通せない。**(2)
- **資材高騰で経営継続が不安。**(2)
- **農家の減少が不安。**
- **多面的機能支払交付金の後継者がいないかも。**

■今後に向けて

- **10年先を見据えて協力し合うことが必要。**
- より多くの人に農業に関わってもらいたい。
- こうしたアンケートがどう反映されているか知りたい。

赤字は複数意見で、（　）内の数字は件数。
青字は単独意見でも重要と思われる視点。

24　前橋市の農業についての提案・要望①

■補助・支援

- **物価高騰対策の拡充を。**(10)
- **機械や施設の補助の拡充を。**(8)
- **園芸施設被覆材の張替支援を。**(6)
- **有害鳥獣対策の強化を。**(3)
- **農業予算の確保を。**(3)
- **中山間地域に対策や支援を。**(2)
- **価格安定対策を。**(2)
- **夏の高温対策を。**
- **クビアカツヤカミキリ対策を。**
- **所得補償を。**
- 被災時の支援を。
- 出荷経費の補助を。
- 井戸掘削の補助を。
- ボイラーの補助(修繕、導入)を。
- 堆肥流通に向けて利用しやすい補助を。
- 弱い農家の支援を。
- 安定した生産活動への支援を。

■規制緩和

- **野焼き(畦畔、残渣)の許可を。**(3)
- **農地をもっと簡単に借りたい。**
- 償却資産税の廃止を。
- 小作料の廃止を。
- 人家があって機械が自由に入れない小さな農地は宅地としての活用を。
- 農地取得後の畜産施設建設可能期間の短縮を。

■農地

- **離農予定の人との農地マッチングを。**
- **思い切った農地集積を。**
- 農業委員会は、一反程度の耕作放棄地に目くじらを立てず、農地集約の支援を。

赤字は複数意見で、（　）内の数字は件数。
青字は単独意見でも重要と思われる視点。

24　前橋市の農業についての提案・要望②（つづき）

■販路拡大
- **販路拡大の支援を。**
- JAの野菜を給食や飲食店に。
- 前橋市産農産物の輸出を。

■手続
- **補助金などの手続を簡単に。**
- **電子申請など、行政と農家間のDXを。**

■農業政策
- **有機の推進が慣行の否定にならないように。**
- **前橋市の農業のPR(メディア露出)を。**
- 十勝のような畑作と酪農に。
- 個人の認定農家にメリットを。
- 農村整備を。
- 農業委員の数を減らすべき。

■労働力不足・後継者
- **後継者のマッチングを。**
- 農業ヘルパー制度の導入を。
- 後継者不在の農事組合法人同士の合併推進を。
- 農業の時給アップを。
- 外国人労働者(就農者)への指導を。

■その他
- **混住化社会における農業事情に理解を。**
- 専門家への相談体制を。
- 用水路沿いや歩道沿いの草刈りを。
- 用水の節水に向けた情報共有を。

青字は単独意見でも重要と思われる視点。

25　まとめ①

- 10年以内に事業継承したくても後継者がいない経営体が20%。また、事業継承することなく、廃業するおそれのある経営体が2%。このままだと10年後には、農家数が単に減少するだけでなく、農地や農業技術の継承が困難となるおそれがある。

- 米価上昇を背景に稲作を中心に経営状況が改善した経営体が一部いるものの、全体的にみれば、厳しい経営状況にある。その要因として、農業生産資材の高騰や人件費の上昇、夏の高温による収量減や家畜の生育不良がある。上記に加えて、機械や施設の老朽化、価格の低迷も経営体を苦しませており、畜産にとっては家畜伝染病の発生も大きな不安要素である。

- こうした中、行政に対しては、農業生産資材の高騰対策、機械や施設の導入支援、価格安定対策を望む声が多い。また、畜産では家畜防疫対策や有害鳥獣対策の強化も求められている。

25　まとめ②（つづき）

- 販路については農協への出荷が最も多く、販路の選定には、出荷が楽で手間が少ないことや、安定して数量をさばけることが重要視される。販路開拓については、現状維持でよしとする意見が最も多く、意欲があっても人手不足や負担増を理由に取り組めないでいるため、多くの経営体にとっては販路開拓の前に人手不足の解消が必要である。

- 有機農業への転換はあまり望めないが、農薬や肥料といった生産資材の高騰が経営を圧迫する中、これらの使用を減らすことには前向きである様子が伺える。

- 努力によって収量安定や品質向上につながったとき、農業者は農業へのやりがいを一番感じる。これは経営の安定や消費者からの高評価にもつながり、やりがいを増幅させる重要な要素である。

26　今後の農業政策検討のキーワード①

■**偏った開発から農業を守る**

　開発が同一エリアに集中すると、農地の減少、土地所有者の耕作意欲の低下、共同利用施設の稼働率低下などが生じる。農業の持続性を考慮した計画的な開発が求められる。

■**老朽化した共同利用施設の機能維持**

　市内には耐用年数を超過した共同利用施設が多数存在する。改修や新築には多額のコストがかかるため、対応が困難な状況であるが、産地として農業生産を維持するためにはこうしたハードへの対応にも計画性が求められる。

■**物価高騰への対応**

　資材、機械、施設、様々なコストの上昇が経営を圧迫している状況。国の今後の動向次第では追加の支援を検討。

■**国際情勢等の影響を受けにくい農業へ**

　輸入依存度が高いものをなるべく使用しない方が、国際情勢やそれによる価格変動等の影響を受けずに済む。使用する資材や栽培方法等、農業者にとっての選択肢が広がるような支援を検討。

26　今後の農業政策検討のキーワード②（つづき）

■**気候変動への対応（特に夏の高温対策）**
　現行支援策の効果を検証しつつ、必要に応じて対象品目や対象経費の拡充を検討。

■**マッチング**
　農地を貸したい人と借りたい人。離農する人と新規就農者。廃棄物として処理する必要のある人と資源として使いたい人。耕作放棄地、後継者不足、資源循環等の観点から各種マッチングには有用性を感じる。

■**価格安定・適正価格の形成**
　コスト増分を販売価格に適切に反映でき、再生産可能な価格形成をできることが理想。市場原理が働くため価格転嫁は困難だが、価格安定制度の維持や消費者理解の促進に向けた取組等を検討。

■**行政と農業者間のDX**
　紙のやり取り、郵送でのやり取りに依存している。デジタル技術を活用することで手続きの簡略化や事務処理の効率化を図れる余地がある。

▶ 安心して安定した経営ができ、やりがいを感じられる農業に。